

7	デジタルサービス局	都市のデジタルツインの実現
事業概要	<p>デジタルツインの社会実装に向けた実証プロジェクトの実施や、有識者による検討会の開催、構築した庁内データ連携基盤の活用を通じて、令和12年までに5つの分野（防災・まちづくり・モビリティ・環境・産業（観光等））においてサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の融合によるデジタルツインの実現に向けた取組を推進する。</p> <p>※ デジタルツイン：現実空間で収集したデータを仮想空間に3Dで「双子（ツイン）」のように再現し、高度な分析、シミュレーションを可能とするもの</p>	
これまでの経過	<p>令和2年度に「3Dビジュアライゼーション実証プロジェクト」事業を実施し、令和3年度からは「東京都デジタルツイン実現プロジェクト」を立ち上げ、デジタルツインの実現に向けた取組を本格化させた。令和3年6月には、有識者等で構成する「東京都における『都市のデジタルツイン』社会実装に向けた検討会」を設置し、年度内の計4回の開催の中で、デジタルツインの有用性の検証や今後の目指すべき姿などについて議論を行い、その成果として「デジタルツイン社会実装に向けたロードマップ」の初版を策定した。令和4年度は、庁内の地理空間データ等を局横断的に連携するための「デジタルツイン庁内データ連携基盤」の構築を行い、令和3年度と同様に有識者検討会を4回開催、またベータ版事業として3件のテーマで技術実証をするとともに、年度末には「ロードマップ」を第2版へ更新した。</p>	
現在の進行状況	<p>令和5年度は、デジタルツインの運用・利用拡大に向けて、新たに有識者からなる「東京都における『都市のデジタルツイン』ユースケース創出に向けた検討会」を立ち上げ、具体的なユースケース創出をテーマに年度内に3回開催し、ユースケースに係る講演と意見聴取を行った。これら議論の内容や最新の海外事例の調査などを基に、「デジタルツイン社会実装に向けたロードマップ」を第3版へ更新し、これに基づき取組を進めることとした。</p> <p>「デジタルツイン庁内データ連携基盤」については、令和5年度に本格稼働を開始し、庁内各局に向けた説明会を実施した上で、各局における地理空間データの共有・活用の促進を図った。また、デジタルツイン3Dビューアについては、建設局の「水防災総合情報システム」や、港湾局の「高潮防災総合情報システム」と連携し、APIでのデータ更新を実施するとともに、庁内外の組織が所有する様々なデータを随時追加・更新し、データ可視化の取組を進めている。</p> <p>社会実装に向けた技術実証については、「センサー等によるリアルタイム・準リアルタイムデータの活用検証」、「都市のデータ整備の新たな仕組み検証」及び「産学官でのデータ連携に向けた課題検証」の3件をテーマに行い、上記の事業と併せて、専用webサイトで実証報告書等の情報発信を継続して実施している。</p> <p>さらに、点群データの取得・整備を進め、9月に多摩・島しょ地域分をオープンデータ化するとともに、3Dビューア上にも掲載した。</p> <p>また、令和6年1月に発生した能登半島地震への支援として、石川県が保有する点群データ等を加工し、都の3Dビューアで可視化することで、現地の復旧・復興活動を支援している。</p> <p><有識者検討会開催実績> 令和5年7月14日 第1回開催 令和5年11月14日 第2回開催 令和6年2月14日 第3回開催</p>	

<p>今後の見通し</p>	<p>令和 12 年のデジタルツインの実現に向けて、庁内データ連携基盤の運用や活用事例創出の取組等を通じて、都庁内外のデータ連携先を拡大していく。</p> <p>また、引き続き、都市整備局と連携し、デジタルツインの基礎となる 3D モデルデータを都内全域で整備し、順次公開の上、各局の事業等での活用を目指す。</p> <p>さらに、能登半島地震への対応については、県のニーズに応じてデータを追加し、災害前後の状況比較といった利活用の方法等を提案するなど、支援を継続していく。</p>		
<p>問合せ先</p>	<p>デジタルサービス局 デジタルサービス推進部 デジタルサービス推進課</p>	<p>電話</p>	<p>03-5320-7622</p>